

第44号 (2019-3月発行)

根郷 寿だより



発行 佐倉市立根郷公民館

〒285-0815 佐倉市城 343-5

043-486-3147 FAX 043-486-3686

E-mail negou-public@city.sakura.lg.jp

編集 根郷寿大学・根郷寿だより編集委員会

卒寿する

こんがよ言草書

何度言う

こんなことを言いながら、来年もまた申し込む。講義を受けたり、お友達を作ったり、楽しみや魅力がたくさんある根郷寿大学。なかなかやめられない。来年もよろしくね。

三班 宗像 カネ子

基本に忠実

五班 座間 功

佐倉に越してくる前、横浜に住んでいた時、神奈川県警主催の交通安全講習会がありました。

その時、講師の先生から「基本に忠実」が大切との話がありました。

それは室町時代後期に塚原ト伝という有名な剣豪が下総国香取で門弟に剣術を教えていました。塚原ト伝は高齢になってきたので「免許皆伝」を誰に譲るかを日頃から考えていました。塚原ト伝には三人の男子がおり、いずれ劣らぬ剣の使い手でした。

ある日塚原ト伝が道場の奥に座り、一人づつ呼んでみることにしました。

そして道場の入口の戸の上に棒を挟んでおきました。最初に三男を呼びました。三男は戸を開けるなり上から落ちてきた棒をヒラリと態をかわして入ってきました。次に次男は上から落ちてきた棒を一刀両断に切り捨てて入ってきました。最後に長男は道場の入口の戸の上に挟まれている棒に気付き静かに棒を外して何事もなかったように入ってきました。

この様子を見ていた塚原ト伝は、派手にヒラリと態をかわしたり、一刀両断に切り捨てて入ってきたりしないで、この場合の危険察知の基本を忠実に守って何事もなかったかのように落着いて入ってきた長男に「免許皆伝」を譲ることにしたそうです。

現在は高齢者の車の運転による事故が多く発生していますが、車を運転するにあたっては、スピード・道路標識等交通安全ルールの基本を忠実に守って、無事故で明るく楽しい

日々を過ごしましょう。

生まれ故郷秋田の事

四班 斎藤 たかし

私は昭和十二年四月秋田市で生まれました。日中戦争勃発の年です。

間を置かず、父の仕事の都合で一家揃って上京して杉並区荻窪で生活をしました。その後第二次世界大戦を経て、

国民学校二年生の時、疎開して秋田市にて終戦を迎えました。翌年昭和

二十一年国民学校から小学校と名称を変更されて小学三年生から中学生

を経て高校卒業まで由利郡平沢町、現在は「にかほ市」といいますが、

高校まで生活をしました。中学は旧平沢中学、高校は由利本荘市にある

本荘高校です。今は佐倉人となっていますが、それ迄の若い頃は転々と

生活場所が変わり、様ざまの苦楽を味わった。父の従兄は東京電気化学

「現TDK」の創立者齋藤憲三、この人は地元秋田で「二勝九十八敗の男」と呼ばれ、良い家柄に生まれな

がら様々の事業を起こしては失敗の

連続であった。初期「後に過度期と言われた時期」に会社が倒産寸前であり、それを救ったのが二代目の社長Y氏であった。

ある時その娘が使っていたピアノを売り払い、会社の借金の足しにしたと言ふ逸話がある。二人の娘がいて、その長女は中学時代私と同級生でした。「現在東京在住」

「右記諸々は若い頃経験した例である私の自分史は過去の寿だよりに連載で記録しており、ここでは省略します」この原稿を書く凡そ一ヶ月前甲子園高校野球第百回大会で秋田県代表金足農高が準優勝に輝いた。正に九人だけで戦った。吉田輝星投手を囲む三年生の活躍は、出身高でなくとも、全県民に感動を与えた。

どなたか一度でも秋田に旅をしてみませんか、故郷自慢が甚だしい私ですが……！！

(参考文献と施設紹介等)

*父と子の世紀「秋田魁新報社版」

*にかほ市TDK歴史館

*サイエンスパーク

*にかほ市青年センター

追記

寿だよりは第一号からつづけてファイルで保管しており公民館内での閲覧は自由です。

「外部には持出しは出来ません。」

再び、三度秋田に向かう少し前に原稿を書きました。 十月十日記

再び、三度秋田に向かう少し前に原稿を書きました。

再び、三度秋田に向かう少し前に原稿を書きました。



近頃思うこと(その2)

元寿大生 福久伍市

人は高齢になると物忘れが多くなるものである。私も最近では夕べ食べたごはん何食べたつけ、昨日、午前中は何をしていたつけとなかなか思い出せない。最近では運転免許の高

齢者講習では、何枚かの絵を見せられ、あとで、さつき見た絵は何がありましたかと云われて、以前受験した時は絵が十八枚中、十枚以上答えられたのが今回は四、五枚がやっとでした。よく見たのでしたが思いだせませんでした。そんなわけでぼけ防止に毎朝食事の支度を六時前に起きて私が作ることにしました。長い間作った事がないので女房はびっくりしたり喜んだり、始めは助かったとかすみませんとか云ってましたが、今ではあたり前のような顔をして出来るまで寝ています。始めは味がうすいとか濃いとかからいとかいりる口うるさいようでしたが、これもぼけ防止のためと考えながら作り今は何も云われないようになりました。大根があれば下ろして出すと喜んでくれます。

ある朝、支度をして出すと食欲がないとのこと、何とか食べてもらおうと考えました。そうだ、リンゴを擦ってみようと擦って出したところおいしいねと言ってごはんを食べて

くれました。

子供の頃、食べ物の貧しい時代、私が小学生の頃でした。妹が熱を出して何も食べたくないと云った時に母がリンゴを皮ごと擦ってたべさせたところおいしいと云って喜んで食べたのを横目で見ていた私は、リンゴなんてなかなか食べさせてもらえない時に妹は食べているのがうらやましかった。その時自分も病気になるかと思つたものです。

昨日の事は忘れてるのに子供の頃の出来事は忘れずにおぼえているから不思議である。

今は食べ物に不自由せず毎日朝食を作っている事が人に喜ばれ、自分も認知症予防になっています。



神のみぞ知る定命

二班 中島 美津子

かねてより始めなければと考えていた終活に取りかかる事にした。健康で気力のある今がいいのではと。まずは遺影づくりから。

日比谷にある写真館へ予約をしました。となりにはこの春オープンした「ミッドタウン日比谷」がありそこで孫娘と待合せをしてお食事、ショッピングと楽しみ、その後の撮影となつたので、仕上がりは表情豊かで満足し切つた代物となり気に入りました。果して遺影にはどうでしょうかと云つたところです。

次なる終活は、今まで開いては閉じの繰返しであった「エンディングノート」への記入。痴呆にでもなつてしまつたら遅いので今のうちにと思っています。自分らしくとか意識してしまうと。ペンが進みません。衣類、アルバムなど考えると気が重くなつてきます。

残された家族が困らない様にと解かり易くしておかなければと日々考

えるこの頃です。

いもの会とそれぞれの絆

(四班の例から)

平成二十六年四班有志 平成三十年十二月十三日、根郷公民館調理室で、こんにやく作りを楽しみました。平成二十六年度当時随一の女性班長Aさんを中心に、そしてこの班に幸いこんにやく作りの専門家が入つて下さつたため「いもの会」と名付けました。

歳月も過ぎ、それぞれの用事も重なり、この集會に参加する人は少なくなつていきます。他の班も当時の班長さんを中心に、その後会合を続けているとの事。その意味で根郷寿大は単に学習の場のみではなく、高齢者の仲間づくりに一役を担つていると思ひます。

あれから四年の歳月が過ぎ、平成三十年度四班の班長kさんも女性です。彼女、一生懸命班長のお役目を熟して下さつていきます。絆が深まりすばらしい。

あれから40年 でも・・・

三班 渡部 敏夫

師走のある土曜日、私たち夫婦は、甥っ子の結婚式に甲府に出かけた。自分たちの結婚から45年の歳月が流れていた。式後、新郎に「新婦に一言。いつまでも恋人夫婦でいてね」と。夫唱婦隨、亭主閑白でもなくカー天下でもなく、常に相手を尊重し、よく会話をしてほしいものです。というのも夫婦は主従関係であつてはならずということ。良好な夫婦関係を過ごすには、一にも二にも、二人の会話が不可欠だと思う。

小生、約10年前に定年を迎え、四六時中、自宅にすることが多くなつた。在職中は、家事、子育て等々は家内に任せっぱなしであった。定年後は市内に友人も少なく、話し相手と言へば家内だけといえた。ともすると定年後は家庭内では居場所もなく、粗大ごみ的なつていたかも。朝飯、昼飯そして夕飯。常に一緒。これでは、まさに家内も自分も疲れ

果ててしまう気が。リタイヤ後の小生が始めたことは、この寿大学に入校したことと、アルバイトを始めたこと。夫婦の会話も大事なことではあるが、自宅外に出て、他人様と接している。三まわり以上歳の離れたパートの昔のお嬢様がたと、いろいろと雑談等を交わしている。

残り少なくなってきた人生を楽しく、優雅なものにするには、一歩踏み出して、今の自分を変えなくては。無論、日々の中で最も時間、空間を過ごす家内とは、歳をとったが、いつまでも、会話をしながら「恋人夫婦」でいたいものだ。

「昭和」という時代を

一班 犬丸俊博

毎年十一月八日、寺崎の密蔵院では薬師大祭が行われる。大祭は薬師堂に安置されている薬師瑠璃光如来の御開帳とともに、その脇侍である日光・月光菩薩や十二神将像を前にして護摩が焚かれ、参加者全員で般若心経を唱え、終了後は世話役の

方々を中心として、接待と称して参加者に赤飯や豚汁などが振舞われる。根郷公民館ではこの大祭に伴せて、弁当持参での「寺崎地区史跡めぐり」を兼ね、伝統ある同祭りに参加出来る企画があり、今年も参加させて貰った。

昨年同様、昼食時には会場である集会所で、地元の方による七宝焼の絵画を数点鑑賞する機会も準備され、素晴らしい構図と緻密な仕上がりの大作に感嘆、充実した一日を過ごすことが出来た。

さて、「史跡めぐり」散策では、寺崎の集落内の道路は全て三叉路になっており、「城」に関わるような地名も多く残っており、そこに中世の城館があったとする伝承にも、参加者の興味を惹くものがある。さらに寺崎地区にある数多い神社や彫像類、旧根郷小学校や太田分校への通学だったという幼少期の話など、そこに生活した人だけが語れる歴史に散策で接することができた。意識して散策ルートを逆廻りにしてくれた事で、

昨年度は時間の関係で割愛された場所を訪ね、その説明を聞くこともできた。寺崎地区については、生活史を伝える貴重な資料として過去に「根郷風土記」(初版昭和56年、第2版平成9年、根郷公民館発行)の中に記述もあるが、時間の経過とともに、寺崎やその周辺に限ってみても、大規模団地の開発、新道路の開通や商業・公共施設の開設など、発行後に大きく変化している。

今後とも根郷公民館による「史跡めぐり」等の企画が継続して行われることを期待するとともに、生活史として我々には我々の生きた「昭和」を「根郷風土記」の続編の編集などで伝えていく努めがあるのではないかとも思う。

話は変わるが、同じ十一月下旬、友人の依頼で本佐倉城を案内したが、その友人の知人ということで近くの寺を訪問する機会に恵まれた。その寺で、一般には公開されていない襖を拝見させて頂き、一部取れた襖の下部に墨書された手紙が裏紙として

多量に使用されているのを発見した。たまたま、ある古代史講座を受け、現在では重要な資料となっている古代の戸籍の一部は、貴重な紙として写経用に下賜され、その裏紙として再利用され、正倉院に納められたものであるという。襖の張り紙を補強するものとして利用された上述の墨書も、と考えると、その興味は尽きない。

さらに、自分が受けている古文書講座はくずし字に悪戦苦闘しているも、江戸時代末期の一農民の日記であり、人に読まれることを想定していない日記であっても生活史としてみると大変貴重な資料であるという。この十一月の二つの出来事で、宅地開発後に移り住んできた小生宅ではあろうはずもないが、歴史ある根郷の古民家の蔵には、思いもよらぬ貴重な資料が残っている可能性も思ってしまう。昭和生まれの者が「明治」・「大正」期以前の文化・生活史に思いを馳せたように、次の世代に伝える「昭和」の物や文化とは何か。

世の中が新しい年号を迎えようとする今、改めて思うことでもある。

「物づくり日本の危機」

元寿大受講生 廣吉 正毅

このところ企業の不祥事がたびたびマスコミに報道されている。

その一つが品質データ改ざんである。顧客と前に取り決めた品質基準を、何のこともなく勝手な論理で変えてしまった。

企業曰く、品質を落としても将来の安全性に影響はない。これは上から目線で顧客をみている。いま、それを言われても顧客は納得しない。何か会社の都合でと疑われても仕方がない。企業はこれまで誠実に品質の高い良いものを作ってきた。それは国内おろか外国にも信頼を得ていた。だが、日本企業のその信用がいま怪しくなりはじめている。

敗戦直後、かつての日本は大量の物不足で苦しんでいた。そこで先人は、戦前からあった技術力と工業力をもとに、物づくりを中心に戦後復

興を果たした。そしてその後世界

初の高速鉄道東海道新幹線を、東京オリンピックの開催に間に合わせ開通させた。新幹線はさらに進化し、

機能やデザインそれに安全性に優れ、いま海外でも人気がある。

さて、不祥事を起こした企業はその対策を考えていくことになる。

それで、先ず企業は顧客と対等の関係にあることを、トップから現場の隅々に至るまで浸透させ顧客サービスの向上に努める。

その一方、企業は利益の追求のみでなく、社会の一員として、社会的公正やその地域に利益を還元する。

また、生産現場では品質の良い完璧な製品をつくっていく。それは、消費者みんなに認められ納得される物

でなければならぬ。そしてこれを国内はもちろん海外に向けて発信すればよい。こうして企業はその社会的責任を果たすことになる。

企業はひとりよがりではいけない。そこには法律の支配がある。

東京小菅独房

『ゴーンさん淋しき夜の独り言』

四班 千々和 巖

●昨年、日本国中を騒がした人物の御一人、カルロス・ゴーンさんは寒さの中、小菅の刑務所で年を越されたようです。ゴーンさんの胸中を想い、御見舞い方々、出させて頂きました。

1、ゴーン・ゴーンと「除夜の鐘」

俺の激励かと涙する。

2、今夜も夢見た本能寺「光秀操る

秀吉か、陰に隠れる家康何処」「信

長無念」と涙する。

3、流行語大賞「そだねー」・「俺

の心を詠んだか」と激怒する。

4、平成三十年文字「災」は「我が

社の事か？」と看守に尋ねる。

5、小菅の野狐、面会に「コン、コ

ン、ゴーン様、黄金様」小判が葉

に化けだまされた。「お前が上手だ野狐様」

左記二〇一八年十一月二十六付

「産経新聞」一面より

カルロス・ゴーン容疑者が収容さ

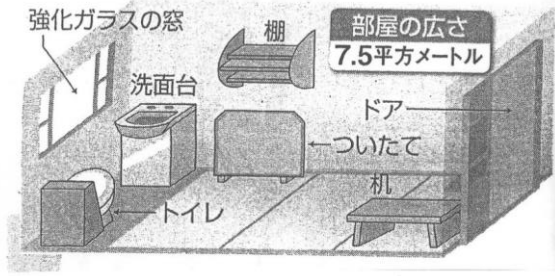
れている東京・小菅の東京拘置所は、定員約3000人と、国内最大の拘置所で、死刑囚や実刑が確定した受刑者のほか、判決が出ていない被告らが暮らしている。全体の約6割が1人部屋にあたる単独室。残りは定員6人の共同室だ。

単独室は7.5平方メートルの広さ。室内は収容者が自殺しないよう、丸みを帯びた柵など、徹底的に突起が排除された作りになっている。床部分も「畳に使われているテグス糸で首をつる危険性がある」（法務省関係者）として、ビニール素材を使用。室内に洋式トイレ、洗面台も備え付けられている。

食事は、調理作業を担当する受刑者が1日3食を用意する。高齢者向けに減塩した食事があるほか、アレルギーや宗教的な事情にも個別に対応している。

一方、フランスでは、プライベートジェットで世界を飛び回っ

(東京拘置所の単独室のイメージ)



ていた生活から一転したゴーン
 容疑者の拘置所暮らしの実態が
 伝えられている。家族との面会は
 1日15分間で、日本語で話さなけ
 ればならない状況と報じられ、フ
 イガ口紙は、容疑者夫妻は日本語
 がほほできないとして「苦悩を想
 像できる」と指摘した。

拘置所単独室は7.5平方メートル

イレ・洗面所付き

川柳

七班 山城安男

- ・ 会話なくひらがな新語でスマホ友
- ・ 今年も 無理するなよ 不整脈
- ・ 焦るまい今年はせぬとでもダメか
- ・ それとなく頭を下げてあらいやだ
- ・ 顔見知り 笑いを貰って 常日頃

活動紹介「ねごう歩こう会」

・ 毎月一回(八月を除く)原則とし
 て第二火曜日午前中、健康目的で主
 に佐倉市内を散策、会員は最大で三
 十人(世話役を除く)迄として欠員
 が生じた場合に入会を認めます。

団体で年間のレクリエーション保険

を掛け会費五百円(三月〜四月迄に
 徴収します。)年に一度弁当持参で市
 外へ、又都合により第二火曜日以外
 の日時に活動する場合あり(極めて
 稀)今回先着順5人以内に限り入会
 申し込みを受け付けます。

・ 平成三十一年度の入会希望者は住
 所、氏名、生年月日を明記(メモ用
 紙で可)

・ 受付は3月1日から3月29日迄と
 する。

根郷公民館担当・長沢(3月29日迄)

又は世話人齋藤迄

※電話(公民館)043-486-3147

・ 参考迄に・この会は過去の根郷公
 民館講座から立ち上げたものであり、
 現根郷寿大生も十数名含まれていま
 す。【成立ち・平成十九年度の根郷探

訪講座から「根郷探訪の会」及び平
 成二十二年開催の健康づくり講座
 から「ウォーキングの会」補充募集
 内容は前記の通り。

編集後記

早くも平成30年度が終わります。
 根郷寿大より44号を発行するに至
 りました。

新年度に移行して間もなく元号
 も変わります。平成9年度の自分史
 づくり講座に端を発して皆様から投
 稿を頂き、根郷寿大学の情報紙とし
 て佐倉市内の数か所にも置いて頂け
 るようになりました。投稿して頂き
 た寿大受講生(元受講生含)の皆様

に感謝を申し上げます。吉野さんの
 回復を歓迎し尚且つ今回から30年
 度1班犬丸俊博さんが編集委員に
 加わりましたことをご報告致します。
 引き続きよろしくお願ひします。又
 45号の原稿を募集しています。長文
 では1200文字以内、短文でも可
 とします。(俳句・短歌等)



原稿を募集しています!!

例えば・・・

- ・ 面白そうな題材
- ・ わが地区自慢
- ・ わが故郷自慢
- ・ 次世代に残し伝えたい話
- ・ 最近思ったこと
- ・ 懐かしい昔のこと
- ・ 旅の思い出